

地方創生関係交付金 事業シート

第3回八戸市総合計画等推進市民委員会

令和3年10月5日

八 戸 市

事業シート目次

- No. 1 八戸都市圏の食ブランドを活かした広域連携による稼ぐ力強化事業（推進） …… P 3
- No. 2 八戸スポーツビジネス創生事業（推進） …………… P 9
- No. 3 八戸産ぶどうを活用したワイン産業の創出による地域経済活性化事業（推進） … P 14
- No. 4 はちのへ空き家再生事業（推進） …………… P 18
- No. 5 はちのハマチナカ活性化プロジェクト（推進） …………… P 22
- No. 6 八戸 A I データワーク推進事業（推進） …………… P 28
- No. 7 蕪島エントランス整備事業（拠点） …………… P 31
- No. 8 多賀多目的運動場スタジアム照明整備事業（拠点） …………… P 34

事業シートの見方

No.○ □□□□□事業（推進・拠点）

※事業名と地方創生推進交付金（推進）または、地方創生拠点整備交付金（拠点）のどちらを活用したか記載しています。

1. 事業概要

担当部署：△△△△課

目 的	※本事業の目的を記載しております。						
事業期間	平成〇〇年度～令和〇年度（〇年間）						
令和2年度実績額	総事業費：〇〇〇〇千円（うち国費：〇〇〇〇千円） ※千円以下は切り捨て						
交付金事業の取組及び実績	<p>【令和2年度の取組】</p> <p>※本事業に関する取組及び実績を記載しております。</p> <p>※千円以下は四捨五入</p>						
K P I	KPI	事業開始前	H29年度 増加分	H30年度 増加分	R1年度 増加分	R2年度 増加分	KPI増加分 の累計
	〇〇〇〇 (〇)	〇〇〇	〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇 —	〇〇〇 —	〇〇〇 〇〇〇
	〇〇〇〇 (〇)	〇〇〇	〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇 —	〇〇〇 —	〇〇〇 〇〇〇
	〇〇〇〇 (〇)	〇〇〇	〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇 —	〇〇〇 —	〇〇〇 〇〇〇
	〇〇〇〇 (〇)	〇〇〇	〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇 —	〇〇〇 —	〇〇〇 〇〇〇
※上段：目標値 下段：実績値							

担当部署 評価	<p>※担当部署において、凡例を基に4段階の評価をしております。</p> <p><input type="checkbox"/>①地方創生に非常に効果的であった <input type="checkbox"/>③地方創生に効果があった</p> <p><input type="checkbox"/>②地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/>④地方創生に対して効果がなかった</p>
担当部署 評価理由	<p>※上記の評価をした理由を記載しております。</p>

2. 本事業の「八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における位置付け及びKPI

基本目標○○○○○

【施策△】□□□□

個別施策××××

※本事業が「八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標、施策及び個別施策のどこに位置付けられているか記載しております。

○*****

***** (各年*月*日)

H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
*****	*****	*****	*****	*****	*****	*****	*****

※太枠内が最新の調査結果、R7が目標値です。

※本事業と関連する「八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のKPIを記載しております。

3. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
- ②地方創生に相当程度効果があった
- ③地方創生に効果があった
- ④地方創生に対して効果がなかった

委員メモ欄

(評価の凡例：選択肢)

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

No.1 八戸都市圏の食ブランドを活かした広域連携による稼ぐ力強化事業（推進）

1. 事業概要

担当部署：広報統計課、観光課、
商工課

目的	関係人口を増やし、関係性を深化させることによって、確度の高い顧客を確保するとともに、若年層、働く世代の当圏域への移住・定住、食ブランドの販路拡大による地域活性化とそれらの相乗効果による八戸都市圏の「稼ぐ力」の強化を図ることを目的とする。
事業期間	平成 29 年度～令和 3 年度（5 年間） ※横展開タイプ ※REGAIN GROUP(株)より、企業版ふるさと納税を活用した 200 万円の寄附金を受納した（H31/1/31）ことで、事業期間を 2 年間延長するインセンティブを受けた。
令和 2 年度実績額	令和 2 年度 総事業費：90,822 千円（うち国費：45,411 千円） 令和元年度 繰越分 事業費：63,400 千円（うち国費：29,700 千円）
交付金事業の取組及び実績	<p>【参考】</p> <p>（平成 29 年度実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八戸都市圏アンテナショップ設置の開設に向けた調査 <u>総事業費：13,932 千円</u> <p>（平成 30 年度実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八戸都市圏 DMO 設立に係る費用（法人統合等に係る業務委託料） ・八戸地域地場産業振興センター展示スペース改装事業 ・関係人口（八戸都市圏ファンクラブ・在京同窓会）形成・PR、チラシ作成等 ・（仮称）八戸都市圏わくわく交流プラザプロモーション戦略策定業務等 ・（仮称）八戸都市圏わくわく交流プラザ実施設計 <p style="text-align: right;"><u>総事業費：54,686 千円</u></p> <p>（令和元年度実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八戸都市圏ファンクラブ会員促進 PR 等事業 ・鯖サミット in 八戸事業 ・（仮称）八戸都市圏わくわく交流プラザ PR 事業 ・（仮称）八戸都市圏わくわく交流プラザホームページ、開設 PR チラシ作成 ・（仮称）八戸都市圏わくわく交流プラザ整備工事、賃借料 ・地域商社事業 ・インバウンド受入体制強化事業 ・DMO 経営戦略マーケティング推進事業 <p style="text-align: right;"><u>総事業費：30,068 千円</u></p> <p>【令和 2 年度の取組】</p> <p>①八戸都市圏ファンクラブ会員促進 PR 等事業【広報統計課】</p> <p>【概要】：八戸圏域に興味・関心を持つ方が集うファンクラブを運営することにより、圏域情報の発信、八戸都市圏交流プラザでのファン同士の交流等を通じて、ファンと圏域とのつながりを深め、地元への印象・イメージや愛着・誇りを高めることで八戸圏域を直接・間接に応援する人々を増やす。</p> <p>【実績】：LINE によるイベント PR 記事の配信や、「スクラム 8」LINE アカウント PR 用のチラシ・ポストカード等の制作を実施</p> <p>【事業費】：512 千円</p>

②八戸都市圏交流プラザ事業【観光課】

【概要】：2020年9月10日に開業した八戸都市圏交流プラザ「8base」において、地場産品の販路拡大を図りながら、継続的に地域を応援してくれる関係人口の形成・増加を目指すとともに、観光誘客、UIJ ターン等を促進するための各種事業（オープニングセレモニー、交流事業業務委託、広報プロモーション、8base パンフレット作成、ウェブサイト運営等）を実施する。

【実績】：（1）9月10日にオープニングセレモニーを開催（新型コロナウイルスの感染拡大を受け、開業日が6月から9月に延期となった。）
（2）八戸圏域のファンづくりを目的とした交流会を7回開催（新型コロナウイルスの感染拡大を受け、15回中、8回は中止とした。）
（3）インフルエンサーを活用した SNS による情報発信や旅行雑誌を活用したプロモーションを実施
（4）八戸都市圏交流プラザ「8 base」を PR するためのパンフレットを 30,000 部作成
（5）八戸都市圏交流プラザ「8 base」のウェブサイトの管理運営。（令和 2 年度 PV 数：173,385PV）
（6）首都圏の各種メディアにて紹介された（テレビ番組 6 件、雑誌 3 件 等）

【事業費】：19,790 千円

③海外販路拡大事業【商工課】

【概要】：ASEAN 諸国（主にベトナム社会主義共和国、シンガポール共和国）等へ販路拡大を目指す企業を支援し、八戸圏域の地場産品の更なる販売促進及び認知度向上を図るため、国内外バイヤーとの商談会、現地での営業活動、プロモーション活動等を実施する。

【実績】：（1）商談スキルアップ講座開催 10/5、6 10 社参加
（2）オンライン商談会開催 10/26～28 商談先 11 社（ベトナム 5 社、シンガポール 4 社、国内 2 社） 全 55 商談 成約 1 件
（3）営業代行 営業先 6 社・延べ 9 商品 継続商談希望 3 件
（4）現地販売促進活動 2 社 4 商品についてベトナムホーチミン市におけるデモンストレーション販売実施
※新型コロナウイルス感染症の影響を受け、（1）及び（2）は当初計画を変更しオンライン化した他、（3）及び（4）は現地渡航せず現地スタッフにより実施した。

【事業費】：7,819 千円（交付金対象事業経費 7,549 千円）

④八戸圏域 DMO「VISIT はちのへ」連携事業【観光課】

【概要】：八戸圏域 DMO として 2019 年 4 月に設立された「（一財）VISIT はちのへ」が実施する、八戸圏域の商流づくり、インバウンド受入態勢の強化、DMO 経営戦略マーケティングの推進といった各種事業を支援する。

【実績】：（１）首都圏での物産展や八戸都市圏交流プラザ「8 base」に八戸圏域の食材を提供し、流通上の課題や八戸圏域の食材の首都圏での評価に関する検証を実施
（２）専門人材を活用し、八戸圏域の魅力的なコンテンツ等の情報を英語で SNS を活用して発信
（３）DMO の運営に関する専門人材を活用し、各種取組を実施

【事業費】：8,948 千円

⑤八戸都市圏交流プラザ内装業務委託事業【観光課】

【概要】：八戸圏域産品の認知度を高め、地場産品の販路拡大を図りながら、継続的に地域を応援してくれる関係人口の形成・増加を目指すとともに、観光誘客、UIJ ターン等を促進するための首都圏交流拠点として開設する八戸都市圏交流プラザ「8 base」の施設整備と併せて必要となる備品什器や冷凍冷蔵ショーケース、厨房機器や映像機器を整備する。

【実績】：首都圏交流拠点『八戸都市圏交流プラザ「8 base」』の整備が完了し、9 月 10 日に開業。開業以降は八戸圏域の食材を活用した食事の提供、地場産品の販売等による八戸圏域の PR を実施したほか、八戸圏域のファンづくりを目的とした交流会を開催。

【事業費】：54,025 千円

【令和元年度からの繰越分】

⑥八戸都市圏交流プラザ整備工事【観光課】

【概要】：八戸圏域産品の認知度を高め、地場産品の販路拡大を図りながら、継続的に地域を応援してくれる関係人口の形成・増加を目指すとともに、観光誘客、UIJ ターン等を促進するための首都圏交流拠点である八戸都市圏交流プラザ「8 base」の施設整備を行う。

【実績】：首都圏交流拠点『八戸都市圏交流プラザ「8 base」』の整備が完了し、9 月 10 日に開業。開業以降は八戸圏域の食材を活用した食事の提供、地場産品の販売等による八戸圏域の PR を実施したほか、八戸圏域のファンづくりを目的とした交流会を開催。

【事業費】：63,400 千円

	(参考：令和3年度の取組) ・八戸都市圏交流プラザ事業 ・八戸都市圏スクラム8ファンクラブ形成・PR事業 ・海外販路拡大事業 ・八戸圏域版DMO「VISIT はちのへ」連携事業 総事業費（交付申請額ベース：80,200千円）							
K P I	KPI	事業開始前	H29年度 増加分	H30年度 増加分	R1年度 増加分	R2年度 増加分	R3年度 増加分	KPI増加 分の累計
	食料品製造業 製造品出荷額(千円)	135,009,010	132	7,500	57,600	120,000	120,000	305,232
			15,988,500	-7,163,550	-2,751,420	1,348,300	—	7,421,830
	地場産品商 談成立件数 (件)	0	10	12	13	57	49	141
			24	30	-33	-19	—	2
	八戸市ホーム ページ(観光) アクセス数 (PV)	1,529,508	306,000	400,000	440,000	495,000	495,000	2,136,000
933,536			419,360	35,437	-1,551,694	—	-163,361	
八戸都市圏フ ァンクラブ会員 数(人)	0	0	1,000	2,200	3,300	4,400	10,900	
		0	559	711	645	—	1,915	
※上段：目標値 下段：実績値								
担当部署 評価	<input type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input checked="" type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった							
担当部署 評価理由	新型コロナウイルス感染症拡大により、「地場産品商談成立件数」や、「八戸都市圏ファンクラブ会員数」等、KPI達成状況は芳しくなかったものの、首都圏に開業した八戸都市圏交流プラザ「8 base」においては、各種メディアで取り上げられたほか、約20万人の来店者を記録している。 また、海外販路拡大事業ではオンライン等を活用し、海外バイヤーとの商談機会及び現地販売促進活動機会を確保し、圏域食ブランドの販路拡大及び認知度向上に寄与している。 上記により、事業開始前よりも取組が前進・改善したと考える。							

2. 本事業の「第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における位置付け

基本目標1 多様な就業機会を創出する、これを支える人材を育て活かす

【施策1】 地域産業の成長・発展

個別施策③ 販路の拡大と八戸港の物流機能の強化

○製造品出荷額等（数値目標）

八戸市（各年集計）

H29	H30	R1	R2	R3	R4
5,341 億円	5,691 億円	(R3 調査)	—	—	—

R5	R6	R7
—	—	5,400 億円

※太枠内が最新の調査結果、R7 が目標値です。

基本目標2 新しい人の流れをつくる

【施策2】 地元とのつながりの拡大

個別施策② 「関係人口」の創出・拡大

○社会増減率（数値目標）

八戸市（各年度集計）

H30	R1	R2	R3	R4	R5
-0.49%	-0.36%	-0.25%	—	—	—

R6	R7
—	(基準値より改善)

※太枠内が最新の調査結果、R7 が目標値です。

3. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
- ②地方創生に相当程度効果があった
- ③地方創生に効果があった
- ④地方創生に対して効果がなかった

委員メモ欄

〈評価の凡例：選択肢〉

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

No.2 八戸スポーツビジネス創生事業（推進）

担当部署：スポーツ振興課、長根屋内スケート場、
 駅西区画整理事業所、市街地整備課
 公園緑地課

1. 事業概要

目的	八戸中心街付近に立地し、国際規格を備えた「長根屋内スケート場（公設公営）」と、八戸駅西地区に立地し、アイスホッケーリンクを中心に多目的に利用できる「八戸多目的アリーナ（民設民営）」の整備に伴い、飲食、宿泊、観光等周辺産業への経済波及効果や雇用創出効果の起爆剤となるよう、地域の実情を踏まえた十分な検証を行い、投資以上の経済効果を地域にもたらずインフラとして、最大限活用されることを目的とする。
事業期間	平成 29 年度～令和 3 年度（5 年間） ※先駆タイプ
令和 2 年度実績額	総事業費：80,652 千円（うち国費：40,326 千円） 令和元年度 繰越分 事業費：52,260 千円（うち国費：26,130 千円）
交付金事業の取組及び実績	<p>【参考】</p> <p>（平成 29 年度実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内スケート場の運営方法等に関する調査 ・氷都八戸パワーアッププロジェクト <p style="text-align: right;">総事業費：25,584 千円</p> <p>（平成 30 年度実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氷都パワーアッププロジェクト ・多目的アリーナを核とした八戸駅西地区のエリアマネジメントと地域活力創出に向けた調査 ・スポーツ推進計画策定等委託料 ・移住・定住・シティプロモーション ・屋内スケート場 NTC（ナショナルトレーニングセンター）開設設備整備事業 <p style="text-align: right;">総事業費：93,015 千円</p> <p>（令和元年度実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YS アリーナ八戸 竣工記念・オープニング記念イベント開催事業 ・産学官スポーツ科学連携事業 ・氷都パワーアッププロジェクト ・八戸駅西地区におけるアイスアリーナを核としたまちづくり事業 ・スポーツコミッション設立事業 ・YS アリーナ NTC 関連設備整備事業 ・多目的アイスアリーナ設備導入補助金 ・FLAT HACHINOHE 隣接広場整備事業 ・多目的アイスアリーナ設備導入補助金 <p style="text-align: right;">総事業費：180,975 千円</p>

【令和 2 年度の取組】

① Y S アリーナ八戸 産学官スポーツ科学連携事業【長根屋内スケート場】

【概要】：スポーツを活用したまちづくりの先進地視察調査、実証事業の計画立案及び実施、効果検証。

- (1) 先進事例調査
- (2) 実証事業の企画、実施幅広い層への健康運動プログラム、食関連企業等とのコラボ事業、利活用に関するアンケート調査 など

【実績】：(1) 先進事例調査、食関連企業等とのコラボ事業については新型コロナウイルス感染症の影響のため中止。

- (2) 実証事業の企画、実施 幅広い層への健康運動プログラムとして、基礎トレーニング講座、ジュニアサッカー教室は回数を縮小し、各 1 回開催。

【事業費】：1,026 千円

② 氷都八戸パワーアッププロジェクト【スポーツ振興課】

【概要】：「氷都八戸」を標榜する当市のシンボリックなスポーツであるスケート競技について、競技人口の増加と競技力の向上を図ることを目的として、スケート教室等の各種事業を展開する。

【実績】：(1) 市主催スケート教室の開催（全 4 回、143 名参加）

※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、募集定員を縮小するとともに、予定していた全 9 回中 5 回を中止。

- (2) スケート教室への指導者派遣（延べ 239 名派遣）
- (3) 小学生選手へのスピードスケート靴等の無料貸付け
- (4) 中学生選手へのスケート競技用具購入補助（36 名へ補助）

【事業費】：1,272 千円

③ 八戸駅西地区エリアマネジメント導入推進事業【市街地整備課・駅西区画整理事業所】

【概要】：多目的利用可能な通年型アイスアリーナである「FLAT HACHINOHE」が 2020 年 4 月に開業した中、2018 年度に策定した八戸駅西地区まちづくり計画に則り引き続きエリアマネジメント導入推進事業を実施する。

【実績】：(1) シンボルロード周辺関係者等による意見交換会の開催（2 回開催）

→シンボルロード沿線の地権者及び XSM 社により開発意向等の情報交換

- (2) 八戸駅西地区まちづくりセンター準備会議（高校生を含む 107 名登録）の開催

→学識経験者等によるコアメンバー会議（2 回実施）

→コアメンバーの他、一般メンバー等による全体会議（1 回実施）

- (3) 一般メンバー有志によりイベント企画などを行う「八戸駅西地区で盛り上がり隊」月例会を 7 月から 9 回実施（延べ 143 名の一般参加者）

→「八戸駅西地区で盛り上がり隊」企画により FLAT HACHINOHE にてマルシェ
やラジオ体操等のイベントを随時実施

※調査を予定していた駅前保留地需要調査については、新型コロナウイルス感
染症拡大の影響によりとりやめ、令和3年度に実施することとした

【事業費】：事業費 5,962 千円（うち交付金対象事業経費 5,778 千円）

④スポーツコミッション設立事業【スポーツ振興課】

【概要】：【概要】：平成 30 年度に策定した「八戸市スポーツ推進計画」に基づき、当市
におけるスポーツの成長産業化を図るため、各種実証事業や調査を行いながら、
民間主導のスポーツコミッションの設立の検討を実施。また、Y S アリーナ八戸と
FLAT HACHINOHE をはじめとする氷都八戸を代表するスポーツ施設につい
て、国際大会等の大型イベントの誘致及び、スポーツ合宿の誘致に向け、「稼ぐ」
施設利用を促進するための P R 事業を実施。

【実績】：八戸市スポーツビジネス実証事業（委託事業）

- （1）スポーツアカデミー事業（主に小中学生を対象とした運動教室・食育講
座を実施）
- （2）アスリート食メニュー開発事業（八戸産の食材を活用した合宿来訪者向
けアスリート食を開発）
- （3）アスリート食メニューPR 業務（（2）で開発したアスリート食メニューPR
のための冊子・動画等の作成）

【事業費】：総事業費 7,016 千円

⑤FLAT HACHINOHE 隣接広場整備事業【公園緑地課】

【概要】：FLAT HACHINOHE 隣接広場整備を整備する。

- 【実績】：（1）（仮称）八戸駅西多目的アリーナ隣接広場整備工事
（2）（仮称）八戸駅西多目的アリーナ隣接広場植栽工事
（3）FLAT HACHINOHE 隣接広場測量調査設計業務委託
（4）FLAT HACHINOHE 隣接広場多目的休憩所建設工事

【事業費】：65,561 千円

【令和元年度からの繰越分】

⑥FLAT HACHINOHE 隣接広場整備事業【公園緑地課】

【概要】：FLAT HACHINOHE 隣接広場を整備する。

- 【実績】：（1）（仮称）八戸駅西多目的アリーナ隣接広場整備工事
（2）（仮称）八戸駅西多目的アリーナ隣接広場植栽工事

【事業費】：52,260 千円

	(参考：令和3年度の取組) ・YSアリーナ八戸 産学官スポーツ科学連携事業 ・氷都パワーアッププロジェクト ・八戸駅西地区エリアマネジメント導入推進事業 ・スポーツコミッション設立事業 ・F LAT HACHINOHE 隣接広場整備事業 総事業費：165,218千円							
K P I	KPI	事業 開始前	H29年度 増加分	H30年度 増加分	R1 年度 増加分	R2 年度 増加分	R3 年度 増加分	KPI 増加 分の累計
	スポーツ施設利用 者数(人)	989,212	2,500 61,409	2,500 132,398	73,500 -38,009	195,000 -325,985	45,000 —	318,500 -170,187
	プロスポーツ観戦 者数(人)	36,131	2,000 27,067	4,000 -3,534	15,000 -2,439	29,000 -32,372	29,000 —	79,000 -11,278
	八戸多目的アリー ナ入場料等収入 (千円)	0	0 0	0 0	10,000 0	760,000 262,629	50,000 —	820,000 262,629
	八戸多目的アリー ナ稼働率(%)	0	0 0	0 0	0 0	92.7 96.7	3.6 —	96.3 96.7
	※上段：目標値 下段：実績値							
担当部署 評価	<input type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input checked="" type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった							
担当部署 評価理由	新型コロナウイルス感染症対策（施設休館、イベント開催制限等）により、KPI 達成状況は芳しくなかったものの、地域市民へ基礎トレーニング講座等を行い、「スポーツを軸とした健康」・「地域貢献」をキーワードにスポーツの場を提供したほか、スケート教室等スケート競技人口の増加と競技力向上のための事業や、スポーツコミッション設立検討のための八戸市スポーツビジネスの実証事業の実施により、事業開始前よりも取組が前進したと考える。							

2. 本事業の「第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における位置付け

基本目標4 住み続けたいまちをかたちづくる

【施策4】 時代にあった個性のあふれる地域の形成

個別施策② スポーツ・健康まちづくりの推進

個別施策③ 中心市街地のにぎわい創出

○平均寿命（全国平均との差）（数値目標）

八戸市（5年ごとに集計）

H27		R2		R7	
男性	女性	男性	女性	男性	女性
-1.89歳	-1.15歳	—	—	(全国平均との差を縮小)	

※太枠内が最新の調査結果、R7が目標値です。

○市内プロスポーツのホームゲーム来場者数（1試合平均）（KPI）

八戸市（各年度集計）

H29	H30	R1	R2	R3	R4
1,630人	1,593人	1,450人	709人	-	-

R5	R6	R7
-	-	1,800人

※太枠内が最新の調査結果、R7が目標値です。

3. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
- ②地方創生に相当程度効果があった
- ③地方創生に効果があった
- ④地方創生に対して効果がなかった

委員×モ欄

〈評価の凡例：選択肢〉

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

No.3 八戸産ぶどうを活用したワイン産業の創出による地域経済活性化事業（推進）

1. 事業概要

担当部署：農業経営振興センター

<p>目 的</p>	<p>八戸市の主要農産物の1つである葉たばこの生産が、たばこ需要の減少により縮減していることから、平成26年5月に市の附属機関として「八戸市南郷新規作物研究会議」を創設し、その会議の検討の結果、国内市場が拡大傾向にあり、ぶどうの生産、ワインの製造、物流及び販売等裾野が広く、飲食業等の既存の民業への波及効果の高いワイン産業の創出により、付加価値の高い農業の振興による地域経済の活性化を図ることを目的とする。</p>
<p>事業期間</p>	<p>平成30年度～令和4年度（5年間） ※横展開タイプ ※イガラシ綜業(株)より、企業版ふるさと納税を活用した200万円の寄附金を受納した(R2/6/24)ことで、事業期間を2年間延長するインセンティブを受けた。</p>
<p>令和2年度実績額</p>	<p>総事業費：4,069千円（うち国費：2,034千円）</p>
<p>交付金事業の取組及び実績</p>	<p>【参考】 （平成30年度実績） ・八戸市ワイン需要拡大プロジェクト ・八戸市ワイン産業創出支援事業 ・八戸市ワイン用ぶどう雨よけ施設整備支援事業 総事業費：16,780千円</p> <p>（平成30年度からの繰越分） ・八戸市ワイナリー創出支援事業補助金 総事業費：50,000千円</p> <p>（令和元年度実績） ・八戸市ワイン需要拡大プロジェクト ・八戸市ワイン産業創出支援事業 ・八戸市ワイン用ぶどう雨よけ施設整備支援事業 総事業費：3,070千円</p> <p>【令和2年度の取組】 ①八戸市ワイン需要拡大プロジェクト 【概要】：市内のワイン需要の拡大や人材育成のため、八戸ワインフェス、八戸ワイン産業振興セミナー及び八戸ワインカレッジ等の市民向けのイベントを開催する。 【実績】：（1）八戸ワイン産業振興セミナー 開催日：第1回 7/7、第2回 11/11、第3回 3/14 参加者数：第1回 44名、第2回 53名、第3回 27名 （2）八戸ワインカレッジ（オンライン開催） 開催日：3月18日 参加者数：21名 ※八戸ワインフェスは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。 【事業費】：811千円</p>

②八戸市ワイン産業創出支援事業

【概要】：ワイン用ぶどうの生産量のさらなる増大による農業振興を目的に、南郷地区で農業生産を行う市内農業経営体のワイン用ぶどうの苗木の購入に要する経費を補助する。（補助率 1/2 以内）

【実績】：交付対象者 3 農業経営体

【事業費】：1,492 千円

③八戸市ワイン用ぶどう雨よけ施設等整備支援事業

【概要】：ワイン用ぶどうの品質の向上による農業振興を目的に、南郷地区でワイン用ぶどう栽培を行う市内農業経営体のワイン用ぶどうの雨よけに必要なビニール等の購入に要する経費を補助する。（補助率 1/2 以内）

【実績】：交付対象者 6 農業経営体

【事業費】：1,748 千円

④ワイン用ぶどう生産講習会の開催

【概要】：ワイン用ぶどうの生産に関する技術力の向上を図るため、ワイン用ぶどう生産経営体を対象とした生産講習会を開催する。

【実績】：開催日：8/31

参加人数：21 名

【事業費】：18 千円

（参考：令和 3 年度の取組）

- ・八戸ワイン需要拡大プロジェクト
- ・八戸市ワイン産業創出支援事業
- ・八戸市ワイン用ぶどう雨よけ施設等整備支援事業
- ・ワイン用ぶどう生産講習会の開催
- ・八戸市ワイナリー創出支援事業

総事業費：5,515 千円

K P I

KPI	事業開始前	H30 年度 増加分	R1 年度 増加分	R2 年度 増加分	R3 年度 増加分	R4 年度 増加分	KPI 増加 分の累計
八戸産ワイン等販売数量（本）	0	100	10,900	18,800	23,300	57,500	110,600
		3,350	3,349	5,370	—	—	12,069
八戸産ワイン用ぶどう生産数量（kg）	0	2,753	8,940	17,268	56,958	102,432	188,351
		4,742	4,782	1,226	—	—	10,750
ワインツーリズムによる誘客数（人）	0	36	146	292	482	672	1,628
		0	190	-81	—	—	109

※上段：目標値 下段：実績値

担当部署 評価	<input type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input checked="" type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった
担当部署 評価理由	KPI達成状況は芳しくなかったものの、ワイン需要の拡大や人材育成のためのイベント、並びにワイン用ぶどうの生産量増大に向けた取組等を実施することにより、事業開始前よりも取組が前進したと考える。

2. 本事業の「第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における位置付け

基本目標 1 多様な就業機会を創出する、これを支える人材を育て活かす

【施策 1】 地域産業の成長・発展

個別施策① 農水畜産業の競争力強化

○農業産出額（数値目標）

八戸市（各年集計）

H29	H30	R1	R2	R3	R4
149 億円	147.9 億円	165.1 億円	-	-	-

R5	R6	R7
-	-	149 億円

※太枠内が最新の調査結果、R7 が目標値です。

3. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
- ②地方創生に相当程度効果があった
- ③地方創生に効果があった
- ④地方創生に対して効果がなかった

委員×モ欄

〈評価の凡例：選択肢〉

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

No.4 はちのへ空き家再生事業（推進）

担当部署：市街地整備課

1. 事業概要

（令和元年度は建築住宅課所管）

<p>目 的</p>	<p>近年、全国的に増加し問題となっている空き家について、地元企業（不動産・IT 企業）のほか、PR 効果と情報発信力を期待できる地元スポーツチームと連携し、空き家に対する住民意識の醸成や効果的な PR を図りながら、空き家利活用の促進等に取り組み、空き家再生の成功事例を生み出すとともに、地域経済の活性化及び地域スポーツの振興を図ることを目的とする。</p>
<p>事業期間</p>	<p>平成 30 年度～令和 4 年度（5 年間） ※横展開タイプ ※信金中央金庫より、企業版ふるさと納税を活用した 200 万円の寄附金を受納した (R3/2/24) ことで、事業期間を 2 年間延長するインセンティブを受けた。</p>
<p>令和 2 年度実績額</p>	<p>総事業費：38,231 千円（うち国費：19,115 千円）</p>
<p>交付金事業の取組及び実績</p>	<p>【参考】 （平成 30 年度実績） ・空き家再生事業業務委託 総事業費：49,122 千円 （令和元年度実績） ・空き家再生事業業務委託 総事業費：39,699 千円</p> <p>【令和 2 年度の取組】 空き家再生事業業務委託 【事業費】：38,231 千円</p> <p>①空き家の実態調査及びデータベースの作成 【概要】：空き家の実態調査を実施し、空き家の基本データを収集してデータベースを構築する。実態調査は、空き家再生を図ることによって一定の効果が見込める地域（中心市街地周辺等）を対象として実施する。 【実績】：令和 2 年度調査地区：柏崎、湊</p> <p>②空き家ポータルサイトの運営 【概要】：空き家バンク機能を有するほか、空き家の利活用等に関する各種情報を掲載し、空き家の利活用希望者等に対しワンストップで対応できる空き家ポータルサイトを運営。 【実績】：令和 3 年 8 月 31 日現在登録者 （1）空き家バンク協力事業者 34 事業者（宅地建物取引業者） （2）空き家相談協力員 47 人 （弁護士 6 人、税理士 1 人、司法書士 2 人、宅地建物取引士 38 人）</p>

	<p>③空き家対策に関するPR動画（3本）の制作</p> <p>【概要】：空き家対策に関するPR動画を制作し、インターネット（空き家ポータルサイト等）で配信する。</p> <p>【実績】：（1）空き家発生防止編 空き家を学ぼう （2）空き家利活用促進編 空き家で夢のタイムスリップ （3）空き家利活用促進編 空き家から誕生！スパイスの効いた非日常空間</p> <p>（参考：令和3年度の実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家の実態調査（三八城、白銀地区） ・データベースの作成 ・ポータルサイトの運営（空き家に関する各種情報の提供） ・空き家対策事業に関するPR ・空き家利活用促進のためのシステム構築 <p style="text-align: right;">総事業費：38,165千円</p>																																				
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">KPI</th> <th style="width: 10%;">事業開始前</th> <th style="width: 10%;">H30年度 増加分</th> <th style="width: 10%;">R1年度 増加分</th> <th style="width: 10%;">R2年度 増加分</th> <th style="width: 10%;">R3年度 増加分</th> <th style="width: 10%;">R4年度 増加分</th> <th style="width: 15%;">KPI増加分の累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">空き家解消件数 (件)</td> <td rowspan="2">0</td> <td>7</td> <td>11</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>26</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>2</td> <td>11</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">空き家ポータルサイト アクセス数 (PV)</td> <td rowspan="2">0</td> <td>50,000</td> <td>20,000</td> <td>20,000</td> <td>90,000</td> <td>100,000</td> <td>280,000</td> </tr> <tr> <td>8,081</td> <td>86,128</td> <td>105,710</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>199,919</td> </tr> </tbody> </table> <p>※上段：目標値 下段：実績値</p>	KPI	事業開始前	H30年度 増加分	R1年度 増加分	R2年度 増加分	R3年度 増加分	R4年度 増加分	KPI増加分の累計	空き家解消件数 (件)	0	7	11	20	22	26	86	0	2	11	—	—	13	空き家ポータルサイト アクセス数 (PV)	0	50,000	20,000	20,000	90,000	100,000	280,000	8,081	86,128	105,710	—	—	199,919
KPI	事業開始前	H30年度 増加分	R1年度 増加分	R2年度 増加分	R3年度 増加分	R4年度 増加分	KPI増加分の累計																														
空き家解消件数 (件)	0	7	11	20	22	26	86																														
		0	2	11	—	—	13																														
空き家ポータルサイト アクセス数 (PV)	0	50,000	20,000	20,000	90,000	100,000	280,000																														
		8,081	86,128	105,710	—	—	199,919																														
担当部署 評価	<p><input type="checkbox"/>①地方創生に非常に効果的であった <input checked="" type="checkbox"/>③地方創生に効果があった</p> <p><input type="checkbox"/>②地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/>④地方創生に対して効果がなかった</p>																																				
担当部署 評価理由	<p>平成31年3月の運営開始以降、空き家ポータルサイト「はちのへ空き家ずかん」の認知度の向上のため、空き家対策に関するPR動画を公開するなどサイトのコンテンツの充実や不動産団体との連携の強化などに取り組んだ結果、KPIのPVについてはアクセス数は順調に増加し、目標値を大幅に上回っていることから、空き家問題への住民意識の醸成が一定程度図られたものと考えられる。</p> <p>一方、空き家解消件数については、目標値の達成には至らなかったものの、令和元年度に比べ大幅に増加しており、空き家解消の成果が出始めていることから、事業の成果が着実に現れてきているとみなせる。</p> <p>上記により、KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進したと考える。</p>																																				

2. 本事業の「第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における位置付け

基本目標4 住み続けたいまちをかたちづくる

【施策2】拠点機能の強化と広域連携の推進

個別施策③ コンパクトシティの推進、空き家・空き店舗対策の強化

○平均寿命（全国平均との差）（数値目標）

八戸市（5年ごとに集計）

H27		R2		R7	
男性	女性	男性	女性	男性	女性
-1.89歳	-1.15歳	-	-	(全国平均との差を縮小)	

※太枠内が最新の調査結果、R7が目標値です。

○空き家バンク登録物件の成約件数（KPI）

八戸市（各年度集計）

R1	R2	R3	R4	R5	R6
2件	11件	-	-	-	-

R7
6件

※太枠内が最新の調査結果、R7が目標値です。

3. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
- ②地方創生に相当程度効果があった
- ③地方創生に効果があった
- ④地方創生に対して効果がなかった

委員メモ欄

〈評価の凡例：選択肢〉

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

No.5 はちのへマチナカ活性化プロジェクト（推進）

1. 事業概要

担当部署：八戸ポータルミュージアム、
観光課、美術館

目的	「はっち」、「八戸ブックセンター」、「マチニワ」と併せて、令和 3 年度には「八戸市新美術館」が開館予定であり、半径 200 メートル以内に文化関連施設が集積しているという立地条件を活かし、「稼ぐ文化」を実践するための様々な施策を総合的に展開し、市民の文化力向上と地域経済活性化の両方を達成することを目的とする。
事業期間	平成 30 年度～令和 4 年度（5 年間） ※横展開タイプ ※信金中央金庫より、企業版ふるさと納税を活用した 200 万円の寄附金を受納した (R3/2/24) ことで、事業期間を 2 年間延長するインセンティブを受けた。
令和 2 年度実績額	総事業費：24,946 千円（うち国費：12,473 千円）
交付金事業の取組及び実績	<p>【参考】 （平成 30 年度実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広場ニストを中心とした各種シンポジウムやワークショップ、マチニワ企画コンペ等 ・まちあるきガイドの外国人観光客対応力向上を図るための育成 ・中心市街地賑わい創出の企画立案、P R 等に関する映像の制作等 ・ディレクション業務委託、V I ディレクションデザイン業務委託 ・八戸の食や八戸圏域の特産品等を出店する「マチニワマルシェ」を開催 ・マチニワ、ガーデンテラスと隣接するみろく横丁と連携したイベント実施 ・マチニワオープニングイベント等 ・観光展示リニューアル事業 ・多言語版八戸観光ガイドマップ作成 ・八戸三社大祭多言語対応スマートフォン対応アプリ開発 <p style="text-align: right;">総事業費：36,015 千円</p> <p>（令和元年度実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広場ニストを中心とした各種シンポジウムやワークショップ、マチニワ企画コンペ等 ・まちあるきガイドの外国人観光客対応力向上事業 ・新美術館整備ディレクション業務、新美術館 V I ディレクション・デザイン業務 ・マチニワマルシェ事業 ・地元大学と連携し、アートビジネス事業や新コンテンツの開発等を実施 ・新美術館空間構成アドバイザー業務 ・マチニワ、はっち、ガーデンテラス、八戸ブックセンターやみろく横丁等、中心街の主な施設や事業者と相乗効果を図るための、各種イベントを実施 <p style="text-align: right;">総事業費：19,679 千円</p> <p>【令和 2 年度の取組】</p> <p>① マチニワアドバイザー事業【八戸ポータルミュージアム】</p> <p>【概要】：広場ニストを招聘し、「マチニワ」の活用を中心に、中心市街地活性化に関する企画を立案、実施する。</p> <p>【実績】：7 月、10 月、11 月、1 月の 4 回 施設運営や企画に関するアドバイスを受けた。</p> <p>【事業費】：110 千円</p>

②マチニワワークショップ事業【八戸ポータルミュージアム】

【概要】：広場ニスト・マチニワアドバイザーを講師に、マチニワの活用策について「多様な世代」や「多彩な分野」の方々からの意見・提案を開館後の運営方法に活かすため、市民ワークショップを開催する。

【実績】：令和3年2月11日「広場をいかす」をテーマに、今後のマチニワの活用方法等についての市民ワークショップを実施。参加者30名。

【事業費】：98千円

③マチニワ活用事業補助金（マチニワ企画コンペ事業）【八戸ポータルミュージアム】

【概要】：八戸まちなか広場 マチニワを活用して実施するイベント等を市民から募集し、賑わい創出が見込めるイベント等へ対して補助金を交付する。

【実績】：公募により選定した4件のマチニワを活用したイベントについて補助金を交付。（うち交付金対象となった事業は3件のみ）

【事業費】：610千円

④インバウンド対応人材育成事業【観光課】

【概要】：八戸圏域 DMO「（一財）VISIT はちのへ」が観光案内業務従事者の外国人観光客への対応力向上を目的に実施する「まちあるきガイド」育成事業を支援する。

【実績】：是川縄文遺跡の世界遺産登録により、今後インバウンドの増加が見込まれることから、観光案内業務従事者を対象とした、インバウンド目線による是川縄文館バスバック利用体験会を2回（八戸駅発着、中心街発着各1回）開催。

【事業費】：259千円

⑤新美術館展示空間デザイン業務委託【美術館】

【概要】：新美術館開館に向け、新美術館のイメージにふさわしい空間づくりとスタッフ育成のために、館内什器のデザイン・選定、又は修繕仕様の作成等を行うものである。

【実績】：オープニング企画展の展示空間構成プラン作成、展示方法や什器配置に係る美術館スタッフへの助言等支援、館内什器のデザイン・選定等を実施した。

【事業費】：1,650千円

⑥マチニワマルシェ事業【八戸ポータルミュージアム】

【概要】：八戸の食や八戸圏域の特産品等を出店する「マチニワマルシェ」を開催する。

【実績】：9月12日(土)～13日(日)にマチニワマルシェを開催。
圏域内の14店舗が出店。

【事業費】：1,485千円

⑦アートの学び事業【美術館】

【概要】：新美術館内に整備する大学活動拠点と連携した事業の方向性を探る。また、「稼ぐ文化」を標榜し、大学と連携してアートビジネス事業や新コンテンツ開発など、中心商店街の活性化や地域経済の活性化につなげる事業を展開する。

【実績】：大学の有する人的ネットワークを活用し、中心商店街の事業主や市内外で活躍するアーティストをパネラーに招聘し、「美術館」「アート」「ビジネス」等の切り口でトークイベントを実施した。また、幼児教育におけるアート教育の充実を図るべく、大学教員を講師とする幼児保育者向けのアート教育研修会を実施した。

【事業費】：1,497 千円

⑧賑わい創出イベント【八戸ポータルミュージアム】

【概要】：マチニワ、はっち、ガーデンテラス、八戸ブックセンターやみろく横丁等、中心街の主な施設や事業者と相乗効果を図るための、各種イベントを実施する。

【実績】：大道芸フェスティバルや季節に合わせたフォトスポット等の企画を実施。コロナの影響により、予定していたマーケットを中止するなど複数のイベントが縮小。

【事業費】：606 千円

⑨マチニワ内装飾【八戸ポータルミュージアム】

【概要】：季節に合わせたはっち館内装飾を実施する。

【実績】：クリスマスのイルミネーションやお正月のタペストリーなどを実施。

【事業費】：777 千円

⑩新美術館運営ディレクション業務委託【美術館】

【概要】：新美術館整備にあたり、開館後の事業内容及び運営の方向性の検討や、開館に向けて市民の機運を醸成する上で効果的なプレ事業の企画などについて、専門家にディレクションを依頼することにより、開館に向けた準備を円滑に行う。

【実績】：新美術館のコンセプトを踏まえた企画展・プロジェクト、及び開館に向けた機運を醸成するためのプレ事業に関するディレクションを行った。

【事業費】：2,899 千円

⑪新美術館展覧会企画事業【美術館】

【概要】：2021 年度の新美術館オープンに向け、専門家にディレクションを依頼し、来館者を増やすためのオープニング事業の企画・準備を行う。

【実績】：新美術館のオープニング企画展の実施に向け、展覧会や会期中のイベントの実施計画の作成や、展示作品制作に係るマネジメントを行った。

【事業費】：8,228 千円

⑫八戸市新美術館広報物デザイン業務委託【美術館】

【概要】：統一的なデザインのもとで新美術館の各種広報物を制作し、新美術館のブランドイメージの形成を図る。

【実績】：美術館紹介リーフレットや、プレスリリース・年間スケジュール等のフォーマット等について、統一的なデザインによる広報物を制作した。

【事業費】：4,000 千円

⑬八戸市新美術館広報業務委託【美術館】

【概要】：新美術館のオープンにあたり、適切な時期に効果的な広報を行うことで、新美術館開館への市内外からの関心を高める。

【実績】：新美術館の開館に先行して、新美術館のビジョンやオープニング企画展など広く周知を図るとともに、開館に向けた期待感を高めるためのプレサイトを制作・公開した。

【事業費】：2,728 千円

(参考：令和3年度の取組)

- ・人材育成事業（マチニワアドバイザー事業、マチニワワークショップ事業、スクール事業、課題解決型市民協働事業の公募、アートファーマープロジェクト、大学資産を活用したアートの学び事業）
- ・稼ぐ、回遊性の向上、コト（時間消費）、繋がる活動（マチニワマルシェ、手しごと展、賑わい創出イベント、新美術館運営ディレクション業務、新美術館展覧会企画、新美術館開設業務、新美術館オープニングプレ・セレモニーの実施等）
- ・観光・インバウンド事業（新美術館広報物等デザイン業務、新美術館ウェブサイト制作保守業務）

総事業費：33,129 千円

K P I	KPI	事業 開始前	H30年度 増加分	R1 年度 増加分	R2 年度 増加分	R3 年度 増加分	R4 年度 増加分	KPI 増加 分の累計
	中心市街地の歩 行者 通行 量 (人)	47,511	5,800	5,900	6,000	6,100	6,100	29,900
			5,720	-4,331	-14,376	—	—	-12,987
	八戸ポータルミュ ジウムはっちと八戸 ブックセンターの合 計 入 館 者 数 (人)	1,123,000	5,660	5,760	5,780	5,780	5,780	28,760
			-123,007	-74,879	-303,500	—	—	-501,386
新美術館入館者 数 (人)	0	—	—	—	37,500	52,500	90,000	
		—	—	—	—	—	0	

※上段：目標値 下段：実績値

担当部署 評 価	<input type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input checked="" type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった
担当部署 評 価 理 由	KPI 達成状況は芳しくなかったものの、新型コロナウイルス感染症拡大の中でも、イベント・企画等で一定の集客を行い、また、新美術館開館に向けた取組や、アフターコロナにおける外国人観光客の受入態勢の強化を図るなど、市民の文化力向上と地域経済活性化の両方を達成するための取組が前進したと考える。

2. 本事業の「第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における位置付け

基本目標4 住み続けたいまちをかたちづくる

【施策4】時代に合った個性あふれる地域の形成

個別施策① アートのまちづくり・本のまち八戸の推進

個別施策③ 中心市街地活性化、陸奥湊駅前地区活性化の推進

○平均寿命（全国平均との差）（数値目標）

八戸市（5年ごとに集計）

H27		R2		R7	
男性	女性	男性	女性	男性	女性
-1.89 歳	-1.15 歳	—	—	(全国平均との差を縮小)	

※太枠内が最新の調査結果、R7 が目標値です。

○中心市街地の歩行者通行量（KPI）

八戸市（各年特定の平日・休日の2日間）

H30	R1	R2	R3	R4	R5
61,726 人	58,028 人	48,217 人	—	—	—

R6	R7
—	75,600 人

※太枠内が最新の調査結果、R7 が目標値です。

3. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ① 地方創生に非常に効果的であった
- ② 地方創生に相当程度効果があった
- ③ 地方創生に効果があった
- ④ 地方創生に対して効果がなかった

委員メモ欄

〈評価の凡例：選択肢〉

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

No.6 八戸 AI データワーク推進事業（推進）

1. 事業概要

担当部署：産業労政課

目的	AI アノテーション作業を行う事業者を支援することで、多様な働き方が期待できる AI アノテーションという新たなしごとを創出しつつ、多様な就業機会や誰もが活躍できる地域社会の確立を目的とする。																													
事業期間	令和2年度～令和4年度（3年間） ※横展開タイプ																													
令和2年度実績額	総事業費：5,000千円（うち国費：2,500千円）																													
交付金事業の取組及び実績	<p>【令和2年度の取組】</p> <p>①AI アノテーション作業を行う事業者に対する補助（公募）</p> <p>【概要】：AI アノテーション作業を行う事業者に対し、AI アノテーション作業を行うための環境の整備や、AI アノテーション作業についての専門人材育成にかかる経費等について支援する。</p> <p>【実績】：AI アノテーション作業を行う事業者に対する補助（公募） 補助事業者1者</p> <p>【事業費】：5,000千円</p> <p>（参考：令和3年度の取組） ・AI アノテーション作業を行う事業者に対する補助（公募）</p> <p style="text-align: right;">総事業費：15,000千円</p>																													
K P I	<table border="1"> <thead> <tr> <th>KPI</th> <th>事業開始前</th> <th>R2年度 増加分</th> <th>R3年度 増加分</th> <th>R4年度 増加分</th> <th>KPI増加分の 累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AI アノテーション作業従事者数（人）</td> <td>15</td> <td>6 12</td> <td>14 —</td> <td>20 —</td> <td>40 12</td> </tr> <tr> <td>補助事業を活用することで、新たに育成した専門人材（指導員等）数（人）</td> <td>3</td> <td>2 2</td> <td>6 —</td> <td>6 —</td> <td>14 2</td> </tr> <tr> <td>補助事業者が受注したアノテーション件数（件）</td> <td>500,000</td> <td>100,000 3,200</td> <td>180,000 —</td> <td>180,000 —</td> <td>460,000 3,200</td> </tr> </tbody> </table> <p>※上段：目標値 下段：実績値</p>						KPI	事業開始前	R2年度 増加分	R3年度 増加分	R4年度 増加分	KPI増加分の 累計	AI アノテーション作業従事者数（人）	15	6 12	14 —	20 —	40 12	補助事業を活用することで、新たに育成した専門人材（指導員等）数（人）	3	2 2	6 —	6 —	14 2	補助事業者が受注したアノテーション件数（件）	500,000	100,000 3,200	180,000 —	180,000 —	460,000 3,200
KPI	事業開始前	R2年度 増加分	R3年度 増加分	R4年度 増加分	KPI増加分の 累計																									
AI アノテーション作業従事者数（人）	15	6 12	14 —	20 —	40 12																									
補助事業を活用することで、新たに育成した専門人材（指導員等）数（人）	3	2 2	6 —	6 —	14 2																									
補助事業者が受注したアノテーション件数（件）	500,000	100,000 3,200	180,000 —	180,000 —	460,000 3,200																									

担当部署 評価	<input type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input checked="" type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった
担当部署 評価理由	補助事業者として当初2者を想定していたが実績は1者のみとなったこと、また補助事業者においてはコロナ禍で想定よりも受注が減少したためKPIのうち、補助事業者が受注したアノテーション件数については目標値に達しなかったものの、AIアノテーション作業従事者数およびその指導員等の育成については目標値を達成したため、概ね成果が得られたと考える。

2. 本事業の「第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における位置付け

基本目標1 多様な就業機会を創出する、これを支える人材を育て活かす

【施策1】地域産業の成長・発展

個別施策② 中小企業及び小規模事業者の経営強化と企業の立地促進

○就職率（数値目標）

八戸市（各年度集計）

H30	R1	R2	R3	R4	R5
43.3%	44.1%	39.2%	—	—	—

R6	R7
—	(基準値より増加)

※太枠内が最新の調査結果、R7が目標値です。

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる、誰もが活躍できる地域社会をつくる

【施策1】誰もが活躍する地域社会の推進

個別施策② 高齢者・障がい者等への支援の充実、社会参加の促進

○合計特殊出生率（数値目標）

八戸市（各年集計）

H30	R1	R2	R3	R4	R5
1.46人	1.35人	1.31人	—	—	—

R6	R7
—	1.67人

※太枠内が最新の調査結果、R7が目標値です。

3. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
- ②地方創生に相当程度効果があった
- ③地方創生に効果があった
- ④地方創生に対して効果がなかった

委員×E欄

(評価の凡例：選択肢)

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

No.7 蕪島エントランス整備事業（拠点）

1. 事業概要

担当部署：観光課

目 的	<p>三陸復興国立公園の北の玄関口である蕪島地区において、地域の特産品や土産品等の販売のほか、休憩もできる憩いの空間としての蕪島物産販売施設を整備することで、蕪島地区での滞在時間の延長、地域の賑わいの創出及び地域経済の振興を図ることを目的とする。</p> <p>また、令和2年3月に、当市を代表する観光スポットである蕪嶋神社の再建工事が完了し、令和2年5月に物産販売施設がオープンした。観光入込客数の増加、地域経済活性化等の相乗効果を図ることで年間10万人以上の集客を目指す。</p>					
事業期間	令和元年4月～令和2年3月（工事期間）					
令和2年度実績額	-					
交付金事業の取組及び実績	<p>【参考】 （令和元年度実績） ・物販機能、飲食提供機能、休憩機能を持つ物産販売施設を整備 令和2年3月26日竣工 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年5月11日供用開始</p> <p style="text-align: right;">総事業費：126,874千円（うち国費：63,437千円）</p> <p>【令和2年度の取組】</p> <p>①蕪島物産販売施設の運営</p> <p>【概要】：物販機能、飲食提供機能、休憩機能を持つ物産販売施設を運営する。 【実績】：来店者175,798人 【事業費】：5,945千円（市単費）</p>					
K P I	KPI	事業開始前	R1年度 増加分	R2年度 増加分	R3年度 増加分	KPI増加分の 累計
	蕪島地区物産販売施設売上金額 (千円)	0	0	25,000	1,000	26,000
			0	26,862	—	26,862
	観光入込客数 (蕪島地区) (人)	155,000	0	100,000	5,000	105,000
			0	147,256	—	147,256
	※上段：目標値 下段：実績値					

担当部署 評価	<input checked="" type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった
担当部署 評価理由	新型コロナウイルス感染症影響下での運営となり、地域のイベント等が開催自粛となるなど、集客面で厳しい状況であったが、当市を代表する観光地における待望の施設であったことから、売上金額及び入込客数ともに KPI の目標値を上回り、事業の目的とする効果が得られたと考える。

2. 本事業の「第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における位置付け

基本目標4 住み続けたいまちをかたちづくる

【施策3】 観光地域づくり・ブランディングの推進

個別施策①観光ブランドの強化と誘客の推進

○宿泊者観光消費額（KPI）

八戸市（各年集計）

H30	R1	R2	R3	R4	R5
187 億円	219 億円	127 億円	—	—	—

R6	R7
—	195 億円

※太枠内が最新の調査結果、R7 が目標値です。

3. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
- ②地方創生に相当程度効果があった
- ③地方創生に効果があった
- ④地方創生に対して効果がなかった

委員メモ欄

〈評価の凡例：選択肢〉

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

No.8 多賀多目的運動場スタジアム照明整備事業（拠点）

1. 事業概要

担当部署：スポーツ振興課

目的	多賀多目的運動場天然芝球技場において、夜間も興行等を行えるような照明設備を設置し、Jリーグが求めるスタジアム基準を満たすホームスタジアムの整備を行う。また、関連する事業を強化していくことで、県内外からより多くの来訪者を呼び込み、交流人口の拡大を通じた地域経済の活性化と観るサッカー文化の醸成を図る。					
事業期間	令和2年4月～令和3年3月					
令和元年度実績額	総事業費：655,424千円 (うち国費：327,712千円)					
交付金事業の取組及び実績	<p>【令和2年度の取組】</p> <p>①多賀多目的運動場天然芝球戯場スタジアム照明整備事業電気工事</p> <p>【概要】：多賀多目的運動場天然芝球技場にJ3リーグスタジアム基準を満たした照明設備を設置する。</p> <p>【実績】：令和3年3月26日竣工</p> <p>【事業費】：655,424千円</p>					
K P I						
	KPI	事業開始前	R2年度 増加分	R3年度 増加分	R4年度 増加分	KPI増加分の 累計
	多賀多目的運動場天然芝球技場の利用者数(人)	36,000	500 -21,382	5,000 —	2,000 —	7,500 -21,382
	ヴァンラーレ八戸FCチケット収入額(千円)	12,287	1,000 -7,287	3,400 —	3,400 —	7,800 -7,287
	ヴァンラーレ八戸FCホーム戦1試合平均観客動員数(人)	1,760	100 -1,053	200 —	200 —	500 -1,053
	※上段：目標値 下段：実績値					
担当部署評価	<input type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった <input checked="" type="checkbox"/> ⑤効果の有無はまだわからない					
担当部署評価理由	令和2年度は工事期間であり、施設整備の効果を計測できないため。					

2. 本事業の「第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における位置付け

基本目標4 住み続けたいまちをかたちづくる

【施策4】時代に合った個性あふれる地域の形成

個別施策② スポーツ・健康まちづくりの推進

○平均寿命（全国平均との差）（数値目標）

八戸市（5年ごとに集計）

H27		R2		R7	
男性	女性	男性	女性	男性	女性
-1.89歳	-1.15歳	-	-	(全国平均との差を縮小)	

※太枠内が最新の調査結果、R7が目標値です。

○「市内プロスポーツチームのホームゲーム来場者数（1試合平均）」

八戸市（各年度集計）

H30	R1	R2	R3	R4	R5
1,593人	1,450人	709人	-	-	-

R6	R7
-	1,800人

※太枠内が最新の調査結果、R7が目標値です。

3. 委員による評価

本事業において、令和2年度は工事期間であり、当該事業がKPI達成に効果があったか検証することが難しいため、令和2年度の委員による評価はしないことといたしますが、ご意見等があればお受けいたします。

委員メモ欄